

農林水産大臣賞

知内区農地・みずべ環境保全向上協議会（滋賀県高島市）



〈魚のゆりかご水田米〉



〈生き物観察会のイベント〉



〈知内の記録を読む会の様子〉

（概 要）

（１）むらづくりの動機・背景

マキノ町知内地区は、高島市の北部に位置し、東が琵琶湖に面している農村で、集落の湖辺には、白い砂浜と青い松林が続く「湖西の松林（日本の白砂青松百選）」が形成されている。この美しい湖岸景観は、区民の活動によって維持されてきたものであるが、近年、第一次産業従事者の減少とサラリーマンの増加により、清掃活動等の共同作業への意識の低下等から参加者が減少するなど、連帯感や郷土愛が薄れ、地区の存続が危惧されていた。

一方、地区の農業は、水稻栽培を中心に営まれてきたが、農業従事者の他産業への流出により土地持ち非農家が急増し、農地は担い手に集積されたものの、農業従事者の減少と高齢化が進んだことで、農道や用排水路等の農業施設の管理が困難となりつつあったことから、平成19年度に「知内区農地・みずべ環境保全向上協議会」を設立し、農業施設等の管理と併せて、地区の行事である環境美化等の取組を一体的に実施することとなった。

（２）むらづくりの内容

協議会は、琵琶湖からニゴロブナをはじめとする湖魚が田んぼへ遡上できるよう、水田の排水路に魚道を設置して滋賀県が推進する「環境こだわり農業」を実施し、「魚のゆりかご水田米」を核に、非農家を取り込んだ環境保全活動、子供達への環境学習の場となる生き物観察会等のイベントを行うなど、地域農業の維持はもとより、都市住民に向けた農業への理解促進、集落環境の美化や生態系の保全への取組を積極的に行っている。

また、非農家も含めた共同作業等の取組により、農業者の負担が軽減されたことで、定年退職後に農業を希望する後継者や施設園芸による新規就農者も現れている。

このように、地域の自然環境を活かした取組は、協議会によって維持されており、更には知内浜オートキャンプ場や漁業協同組合を巻き込む形で、むらづくりの推進に取り組み、地域内外との交流や水田農業を支えながら発展してきた琵琶湖の伝統漁法の継承にも貢献している。

更に、知内区には、約260年前から代々の区長が記録した古文「むらの日記」が、帳蔵に保管されており、有識者により読解された内容を説明する「知内の記録を読む会」を月に1回のペースで継続して開催するなど、区民が知内の歴史を学ぶことにより、郷土を愛する意識の向上に努めている。